



府中市のまちの将来像を掲げる 第5次 府中市総合計画

しあわせ府中^{にーまるさんまる}2030プラン

策定に当たっては、府中市内・市外の学識経験者ら20人による審議が行われました。その様子や、注目すべき点を聞きました。

総合計画は、「課題をどう解決していくか」というパターンで作られることが多いが、今回は、「強みを活かす」という作り方をしている。すごくチャレンジングな取り組み。

府中市総合計画審議会 会長 渡邊一成

夢物語を描いた計画ではなく、府中市の力を合わせれば、実現可能だと考えている。選ばれるまちを目指してスピード感をもって取組を進めていく。

府中市長 小野申人

第5次総合計画の将来像

しあわせ実感！

「力強さ」と「やさしさ」のある未来を創造するまち 府中市

府中市に暮らすことや府中市での活動に
しあわせを実感できるまち
を目指す意味を込めています

安全・安心な暮らし、環境の保全、
人と人が認め合い助け合う社会を
「やさしさ」として表現しています

市のホームページで
総合計画を見ることが
できます



ものづくりを中心とした産業の発展、活気・賑わいのある市街地、
活力あふれる周辺地域、躍動する人づくりを
「力強さ」として表現しています

これからの社会潮流をとらえ
新たな価値や魅力をつくり続けること
を目指す意味を込めています

小野 そういったもろもろの根底となっているのが、歴史だと思っています。ここ府中市にはかつて国府が置かれ、政治・経済・文化の中心であり、その後時代の変化に対応しながら栄えてきた経緯があります。近代になり、多彩な産業が開いたものづくりのまちとして発展しながらも、昔懐かしい町並みを残す、現在の府中市の形となっています。

渡邊 さらに、そこに大きな視点を入れようとして出てきたのが、ICTというキーワードでしたね。審議会でも「新しい強みが必要だ」といった意見もありました。

小野 そうして各分野でICTを取り入れるよう審議を重ねてきたところで、新型コロナウイルスの感染が拡大し、テレワークやオン

小野 渡邊先生には、審議会の会長を受けていただき、大変お世話になりました。第5次総合計画は、前回策定した時からの社会潮流の変化やICTの急激な進歩に対応し、本市の特徴や強みを活かす計画となりました。計画の策定には、市役所内部の協議も含めると1年余り議論を重ねてきましたが、審議会委員の皆さんからは、さまざまな意見を出していただきました。とりわけ、府中市の強みにつながる意見が活発に出たと思います。渡邊先生いかがですか？

渡邊 こちらこそありがとうございます。確かに審議会の中で「府中市っていいところがたくさんあるよね」という意見が多く出ました。

ライン授業などがどんどん取り入れられるようになりました。ICTの推進については元々盛り込んでいたこともあり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が、総合計画の方向性を大きく変えることは、ありませんでしたね。ただ、今後も影響は注視していきます。

渡邊 ICTを活用したもので、ICTを活用した食文化といったように、ICTと〇〇といったことを、新しい府中の強みとして、これから取り組んでいただきたい。ICTの活用は、総合計画の中で、他のすべての基本目標にかかるような位置付けとなっています。

小野 ただ、委員からは「残念ながら市民の皆さんにも知られていない」という指摘もありました。

渡邊 そうした中で、いいところがあるんだと伸ばしていき、知ってもらおう。「強みを活かす」という計画作りをしましょう」という大筋の方向性はすぐに決まりました。意見では、まず、ものづくりはかせない、そして、教育！コミュニケーション・スクールの全国大会を開催したりと、先進的に取り組んでいる。そして、府中焼きという食文化も！市内の高校生に聞いても、この部活はこれのお店が、お気に入りとかいうのがあったりと、すごくいいなあと思うところです。



府中市総合計画審議会 会長

渡邊 一成

福山市立大学都市経営学部・大学院都市経営学研究科教授で、びんご圏活性化戦略会議都市機能研究部会会長、府中市地域公共交通活性化協議会会長なども務める。



府中市長

小野 申人

平成30年5月に市長に当選、今年で3年目となり、市政のかじを取る。